

新発売

**進化するヘッドライトに対応！機能性と実用性を兼ね備え
ハイコストパフォーマンスを実現
スクリーン方式手動ヘッドライトテスター**

**HL-211S
HL-211SL**

●ランプ正対は正対用スクリーンとレーザーを搭載！

●HL-211SLと既存の走行灯用テスターを併用することで、
新基準のすれ違い灯測定への対応が低コストでできます

**業界初!
すれ違い灯測定専用機
(HL-211SL)
が登場!**

**フォグランプ測定高さ
25cmに対応**



新発売

**素早く追従・瞬時に測定。
フォグランプ測定機能を搭載し、機能性がさらに向上！
画像処理方式全自动ヘッドライトテスター**

HLI-2011

●フォグランプ測定機能を追加!測定高さ25cmに対応

●2つのCCDカメラでランプ正対が素早く完了し、
作業効率が格段に向上します

**フォグランプ測定高さ
25cmに対応**



新発売

**バトラーからコストパフォーマンスに優れた新モデルが続々登場！
タイヤチェンジャー**

ドラッグスター



●レバーレス機能を
追加した新ヨーロ
ピアンモデル

**ヨーロピアン
タイヤチェンジャーPC**

**PC
Power Changer**



●徹底的に機
能を絞り込んだ
ベーシック
モデル

ナビゲーター26HW



●軽量&コンパク
トで出張サービ
スにも最適な
大型車用

Call us!

保守点検のおすすめ

ANZEN製品を長くご活用いただくため、保守点検サービス（有料）のご利用をおすすめします。
お近くの営業マンまでお問い合わせください。

24時間サービス体制

ANZEN製品を「安心」してご利用いただくために、24時間サービス（ボイスワープ）対応をいたしております。営業時間外、および
休日におけるサービス電話受付ができます。担当の営業所の電話に連絡していただければできる限り迅速な対応をいたします。

ANZENカスタマーサービス

0120-01-6361 当社の製品およびサービス、その他に関するお問い合わせは左記のフリーダイヤルまでお気軽にどうぞ。
受付時間：月～金（AM9:00～PM5:00）

ANZENホームページ

<http://www.anzen.co.jp> ホームページ“ANZEN Web”ではANZENの最新情報を提供しています。



企業を目指してまいります。
安心をご提供できる
お客様に信頼と

地道で誠実な訪問活動を重ね、
お客様と共に前を向き、
一歩一歩進んでゆく。

激動の時代だからこそ、
お客様と共に前を向き、
一歩一歩進んでゆく。

光ある新年を築くべく、
中谷宗平社長に訊く

安全自動車株式会社



**新しい年を迎ました。
昨年を振り返りつつ2012年についてどのような年になると考えていますか。**

「昨年の東日本大震災から約1年が経とうとする中、新年を迎えるにあたり祝辞を述べることに苦慮するところあります。被災者、被災地の皆様においては、つらい思いで新年を迎えた方が大勢いらっしゃると考えるからです。また昨年は、各国での自然災害、欧州の経済不安など、世界規模で様々な異変のあった年でした。今の我々にできることはひたすらに前を向いて進むことだけであり、その一歩一歩が2012年に少しでも明るさを取り戻してくれる事を祈るばかりです」

**中谷社長は今年4月で社長就任4年目を迎えますが、
今までの3年間を振り返りつつ2012年に向けての抱負をお願いします。**

「2008年のリーマンショック以降、エコカー減税・補助金による自動車需要の変化、自然災害、円高等、経済的には波瀾に富んだ3年間でした。しかし同時に、当社としては企業指針を見直し、積極的な訪問・サービス活動を強化し、お客様の『ありがとう』を集めることに全力を傾けてきた3年間もあります。3年を一区切りといたしますと、2012年は当社の活動がいかにお客様に浸透し、認知していただけているかを計る年になるかと思います。また、昨年は震災の影響もあり、オートサービスショーに出展した商品の中でも、昨年中に発売することができなかったものもありました。今年はそれらを含め、多くの新商品をご紹介ていきたいと考えております」

今後の安全自動車の活動について、具体的にどのような成果を目指していますか。

「私どもが取り組んでいるのは、“愚直に真面目に満遍なくお客様への訪問活動を繰り返す”ことでもあります。その上で、当社が特に注力しているサービス事業について、一人でも多くのお客様にその存在を認知していただくことが目標です。納品引渡し時における機器の取り扱いと保証の説明、販売後点検(1ヶ月、6ヶ月)の実行、さらにその後の定期点検(12ヶ月)の提案。私どもは商品の販売のみならず、お客様が安全かつ安心して機器を長くご使用できるよう、サービスの重要性を啓蒙し、その“見える化”に取り組んでまいりました。『ANZENはここまで提案してくれる』。お客様に当社の在り方そのものを評価していただくためにも、“アフターサービスの充実”を筆頭課題に努力してまいります」

最後にお客様及び取引先の皆様に向けて一言お願いします。

「旧年中は格別のお引き立てを賜り誠にありがとうございました。本年も何卒宜しくお願い申し上げます。お客様におかれましては、これからもご指導ご鞭撻を賜り、ご期待に沿えるよう全力を注いでいく所存でございます。また取引先の皆様には、常日頃よりお世話になっておりますが、本年も何卒ご支援ご協力のほど宜しくお願い申し上げます。本年も皆様の益々のご健勝ご活躍をお祈り申し上げます」

株式会社ホンダカーズ群馬 ホンダグロス群馬前橋センター

群馬県北群馬郡吉岡町大久保2234-1
TEL 0279-26-7200

ホンダグロス群馬前橋センターは、本田技研工業(株)が展開する、ホンダグロス構造に基づいた商品管理センターの一つです。ホンダグロスとは“Honda Genuine Local Service Support”の略で“ホンダ純正の地域密着型サービス支援態勢”のこと。今回取材したホンダグロス群馬前橋センターは、その中の群馬県におけるサポート拠点として2011年10月に新設オープン。全13名のスタッフ(センター長、PDI 4名、板金6名、管理事務2名)で、新車・中古車の商品化を担う「PDI ブロック」と、板金塗装を担う「BSブロック」の2つを軸に納車整備を一括管理しています。特に板金塗装に関しては、かつて外注が中心だったものを内製化にシフト。新車・中古車含め8つの販売拠点を有する、(株)ホンダカーズ群馬の整備を一手に引き受けています。今回は、最新鋭の機器を導入し、新たなサービスを作り上げるべく日々努力を重ねる板金塗装サービスをクローズアップしました。



株式会社ホンダカーズ群馬
サービス部 次長
阿久津 孝治 様

ホンダグロス群馬前橋センター
工場長
田中 邦 様



板金塗装を通じて新たな価値を創出する“クリエイティブ・ファクトリー”

■板金は“リペア”ではなく“クリエイティブ・ワーク”

「修理のために入庫したクルマを新車に創りなおし、お客様の心のへこみも治したい」。(株)ホンダカーズ群馬の阿久津次長は語ります。同社はホンダグロス群馬前橋センターの立ち上げにあたり、新車販売から万一の修理まで、クルマのことをトータルサポートする生涯顧客の指針の元、板金塗装を内製化しました。「板金というと“リペア”的なイメージが強いですが、私たちは“クリエイティブ”だと考えています」と阿久津さん。このコンセプトを実現すべく、同センターは板金塗装の各分野から最新の機器を導入。どんな整備にも対応できる万全の体制で新事業をスタートさせました。



“3Dホイールアライメントスター”、
アライメント整備用リフト、
車検機器などを揃えた充実の設備

■匠の技に頼らず先進技術で整備品質を平準化

最新設備を導入したのには、同センターを“匠のいらない工場”にする目的もありました。今まで外注が中心で板金塗装の経験者が少なかった同社ですが、「他社からベテランを引き抜いたのでは、“クリエイティブ”な精神が育たない」と阿久津さんは考えたのです。そこで目をつけたのが入庫診断。車両状態をデータ化・共有して修理箇所の見逃しを防ぐため、“3Dホイールアライメントスター”と、測定ポイントに触れるだけでボディーの歪みを測定できる、コンピューター計測システム“タッチ”を導入。工場長の田中朗さんは「お客様に届くクルマは、最高の仕上がりになっている」とその効果を評価しています。診断後の作業



アームを当てるだけで
ボディーやフレームの
状態がデータでわかる“タッチ”

も、フレーム修正から塗装まで、やはり最先端の機器が活躍。「ベンチ修正機”ディトナ”は、レール付きでタワーの移動が楽なので、作業負担を軽減しています。他にも、2種類のフレーム修正機を損傷に合わせて使い分けています。溶接機は超高張力鋼板を想定し、誰でも対応できるものを選びました」(阿久津さん)。匠の技と異なり、優れた機器は使い方さえ覚えれば、誰でも均質な作業ができるのです。板金塗装の月間目標は現在約80台ですが、最終的には2倍の約160台を目指すとのこと。田中さんは「今は時間をかけて作業を覚えていますが、一年後には3倍は動けるようになりますよ」と胸を張りました。



3本のレールで素早い作業が可能な“ディトナ”と周囲に準備された溶接機など

■工場見学会で技術や取り組みをアピール

板金塗装の内製化を機に最高のワークステージを整えた同センター。一連の経験を積んだ後は、次のステップとしてユーザーへのアピールを考えています。「今年中には、100人位のお客様を工場へ招待し、『板金塗装とは何か』を知っていただきたいと思います。また、当社の塗装は100%水性塗料を使っているので、そうした環境への配慮も紹介します。このようなイベントを通じて、ホンダの技術や取り組みについて、安心と信頼を高めていただければと思っています」(阿久津さん)。

同社のスローガンは「若さ、挑戦、スピード」。“クリエイティブ”な精神をもって、新しい板金塗装のあり方を目指すホンダグロス群馬前橋センターは、モデルファクトリーとして業界に新たな風を吹き込むに違いありません。



調色室の壁一面に並んだ無数の水性塗料
高い技術とエコ整備が信頼構築の要になる

いすゞ自動車首都圏株式会社 神奈川西支社 厚木支店 サービスセンター

神奈川県伊勢原市下落合303-11
TEL 0463-97-3011

知りたい!
元気な工場の秘密

今回訪問したのは、2011年10月5日に旧工場の老朽化や周辺環境の変化などを受け、一極集中型の新拠点としてオープンを迎えた、いすゞ自動車首都圏(株)厚木サービスセンターです。明るく開放的な整備工場には綱々とトラックが入庫し、活気に溢れています。そんな同社のスタッフは75名(営業8名、サービス・部品67名)。入庫台数は月2000台を目標に掲げています。また時期を同じくして、いすゞ自動車では首都圏で直営ディーラー3社を統合し、東京・千葉・神奈川・山梨をカバーする広域販社として「いすゞ自動車首都圏(株)」が発足したばかり。新拠点、新体制。すべてが新しい環境において、今後の同社の動向にたくさんの注目が集まります。



1ストールを有効活用し、稼働率アップを目指す新鋭の大型整備工場

■最新整備への“対応力”を強化

厚木サービスセンターは東名高速道厚木ICから10分程度、周辺は多くの物流センターが点在し、商圈としては絶好のロケーションです。広大な敷地には最新の整備機器を完備し、より良いサービスを提供できる環境が整っています。



専用の故障診断機を用いた診断サービスは、ディーラーならではの強み

オープン後の展開についてセンター長の小林さんは、「お客様に選んでいただける工場を目指す」と話します。具体的な入庫促進策については、同社では“車両の電子制御化”を前面に打ち出し、故障診断機を用いた診断の必要性を呼びかけていること。周辺には整備工場やディーラーも多く競争も激しい中で、最新車両に適した整備の重要性とその対応力を前面にPRして、入庫につなげていきたい方針です。また、営業活動については部門の垣根を超えて営業、フロント、サービスと協力体制でお客様を訪ねることもあり、連携を大事にしていること。CS向上に力を入れる同社の姿勢が垣間見たエピソードを1つ。事務所のエントランスに入った瞬間、そして帰るときも、元気のよい丁寧な挨拶でお客様を送り出していました。忙しい中でも仕事の手を休め、丁寧な接客を大事にしていることに、有言実行が実現されていることを感じました。



オイル抜きをしながら、
上では故障診断。あらゆる作業
が同時にできる“フロアリフト”

■高効率化のカギは1ストールの有効活用

新設した工場のコンセプトは“稼働効率アップ”。車両をなるべくパックせれない前進導入動線を考え、効率化の実現にこだわりました。今回ANZENからはリフト機器を導入。入庫車両に合わせて使いやすいように、それぞれのリフトが配置されています。大型車整備ストールには“ツインパワーリフト”的柱式が3基、中小型車整備ストールには“ツインパワーリフト”的柱式が1基と2柱式が4基導入されています。その中間に“フロアリフト”3基を設置。“フロアリフト”は2分割式なので、小型～大型まで車両に合わせて整備が可能です。



大型車整備ストール、中・小型車整備ストール
に分け、ムダなく車両を配置



壁ができるだけ開口ピットにし、
入出庫の自由度が高いレイアウトを実現

“ツインパワーリフト”的柱式は、4輪トレーラーを受け入れるためのリフトでもあり、小型車を前後2台に載せてメンテナンスもできるというメリットがあつて選択しました(小林さん)。主に車検関連の整備に使用しており、メカニックのベストポジションに合わせてリフトアップでき、フロアもフラットになるので高効率化に寄与しているとのこと。“2分割フロアリフト”的の使用感については「作業簡素化の一言に尽きます。車両をリフトアップする手間がなく、乗り入れるだけなので安全性も高いですし、車両の前後で異なる作業を行う場合、それぞれフロアの高さを調整できるので、これも作業のスピードアップにつながっています。“フロアリフト”的の作業はエンジン脱着、トランスミッション脱着、クラッチのオーバーホール、オイル交換など、主に足回り周辺のメンテナンスなどの整備で使っています」(小林さん)。

■ESの確立が素晴らしい仕事につながる

効率化の他にも、工場の随所にちょっとした工夫があります。天井リールにはメカニックの手元が明るくなるように、スポットランプ式の大さめの照明器具を設置。脇から照らすようなイメージなので、天井照明では影になってしまい箇所も明るく見えやすくなっています。また、天井屋根には、採光窓を設置。ストール間隔を考慮して設置されているので、工場全体に明るさをもたらしています。集塵リールの設置は、「メカニックの健康維持・保安衛生、そして周辺に粉塵を撒き散らさないよう配慮したもの」(小林さん)。

CSの向上だけでなく、ESの向上も大事にされている同社。“選ばれる企業”をスローガンに取組方針及び個別課題を打ち出しています。旧工場の統合、新天地での入庫誘引活動。厚木サービスセンターの本格稼動は始まったばかり。今後のさらなる飛躍に期待が膨らみます。



リール架台には大きめの照明、
集塵リールは作業者の健康を考慮したもの